



教えて
MIGS!

— カフーク デュアルブレード の使い方 —

日時 2018.4.19(木) 12:45~13:45

会場 第10会場 (リーガロイヤルホテル大阪 3F 光琳3)

座長



稲谷 大
(福井大)

緑内障手術に於いて眼圧を下げる手段は、房水の流出路抵抗をいかに下げるかにかかっているが従来のロトミー、レクトミーでは眼外からのアプローチにより結膜、強膜を切開するため侵襲が大きく、術後のケアや再手術に問題があり手術時間も長く熟練を要する手技であった。近年、より低侵襲な手術を目指して眼内からのアプローチであるab interno MIGSの数々の方法が考案され、年々その広がりをみせ本邦に於いても着実に浸透してきている。米国、コロラド大のProf. Malik Kahookが考案し

たカフークデュアルブレードは、眼内から線維柱帯を帯状に切除して眼内の線維柱帯部の流出路抵抗を低下させることを目的としたMIGS用器具の一つである。白内障手術の延長で行うことが可能で手術時間の短縮、結膜の温存、術後点眼回数削減と患者、術者両方の負担軽減が期待される。

本器具は国内では2016年10月に発売され、一年強が経過した。そこで本セミナーでは、本器具を用いた手術に関して、岩崎健太郎先生/福井大学、藤代貴志先生/東京大学、三木篤也先生/大阪大学にお話しいただく。岩崎健太郎先生には実際の術後成績、藤代貴志先生には本器具を用いた緑内障単独手術、三木篤也先生には白内障同時手術でのコツ、注意点を中心にお話しいただく。

これからMIGSの術式を選択される際の参考として頂ければと思う。

演者



岩崎 健太郎 (福井大)

カフークデュアルブレードの臨床成績

演者



藤代 貴志 (東京大)

カフークデュアルブレードの使い方
— 緑内障単独手術を中心に(交えて)に —

演者



三木 篤也 (大阪大)

カフークデュアルブレードのコツとピットフォール
白内障同時手術を中心に

講演内容は裏面に記載 ▶▶▶

共催：第122回日本眼科学会総会／
株式会社JFCセールスプラン／ジャパンフォーカス株式会社

KAHOOK
DUAL BLADE

NEW WORLD
MEDICAL



カーク デュアルブレード の使い方

演題 カークデュアルブレードの臨床成績

岩崎 健太郎 (福井大)

当施設では昨年1月よりカークデュアルブレードを採用しており、良好な結果を得ています。本デバイスが他の線維柱帯切開術用MIGS(minimally invasive glaucoma surgery)デバイスと異なるのは、線維柱帯を熱や力で切り開くのではなく、2枚の平行な刃によって線維柱帯を帯状に切除することであり、周辺組織への侵襲を最低限に留められる事が良好な手術結果や術中・術後の合併症低減に繋がる1つの要因であると考えられます。

本講演では当施設における現在までの手術成績をお示しし、そこから見えてくるカークデュアルブレードの長所短所を余す事無くご紹介します。今後のMIGSの術式選択の一助となれば幸いです。

演題 カークデュアルブレードの使い方 ー緑内障単独手術を中心(交えて)にー

藤代 貴志 (東京大)

従来の眼外から行う線維柱帯切開術(ロトミー)にとってかわり、ab interno MIGSが広がりを見せています。その中でも、カークデュアルブレード(KDB)は取り扱いが比較的簡便で、眼内からの操作で眼内流出路抵抗を有効に低減できる器具です。当施設では、本器具が昨年9月に正式採用され、従来の眼外からのロトミーから、KDBでのロトミーへ術式が置きかわり、現在では、KDBでのロトミーが大多数を占めています。ただし、実際の施術に際しては視認性確保、出血、切開、虹彩癒着等々種々の条件を考慮する必要があり、これを疎かにするとせっかくのMIGSが本来の目的を達成できなくなります。

そこで本講演では、緑内障単独手術を中心(交えて)にKDBでのロトミー手術のコツ、注意点と当施設での成績をご紹介します。今後のMIGSを用いた緑内障治療の一助になれば幸いです。

演題 カークデュアルブレードのコツとピットフォール 白内障同時手術を中心に

三木 篤也 (大阪大)

本邦では長い間、線維柱帯切除術をはじめとした濾過手術が緑内障手術のほとんどを占めてきました。濾過手術は優れた眼圧下降効果を有する一方で、低眼圧や感染症などの重篤な合併症のリスクが高いことが問題です。最近になって、眼圧下降効果こそ濾過手術よりやや劣るものの、安全性に勝るMIGS(minimally invasive glaucoma surgery)が臨床に導入され、緑内障手術の幅が広がりました。安全と言ってもMIGSはあくまで手術であり、100%安全なわけでも、100%有効なわけでもありません。うまく導入すると安全に緑内障管理の改善が得られますが、適応を誤ると、効果が得られなかったり、合併症を引き起こしたりする恐れもあります。

本講演では、MIGSの中でも大規模な機器が不要で、比較的導入しやすいカークデュアルブレードについて、白内障手術との同時手術を中心に、適応、手術のやり方、難しい症例、術後合併症の対処などについて自験例をまじえてご紹介します。適切なMIGS選択による緑内障治療の改善に、少しでもお役に立てれば幸いです。